

在宅栄養管理における多職種連携

在宅介護において、口から食事が摂れることは、要介護者の栄養改善のみならず、生活改善、QOL向上に大いに役に立ちます。

在宅現場での多職種連携による栄養管理について、管理栄養士の立場から実態の報告、医師・歯科医師それぞれの立場から実例を交えたアドバイス・コメントをいただき、今後の可能性を探ります。

と き：6月23日(日) 午前10時～12時

ところ：協会伏見会議室 (裏面参照)

名古屋市中区錦1丁目13-26 名古屋伏見スクエアビル9F

TEL 052-223-0415

参加費無料

定員：60人

申込み：電話またはFAXで、医療機関・施設名、お名前、住所、電話番号を明記の上、下記までお申し込み下さい。裏面の申込用紙をご利用ください(事前質問等があればご記入ください)。

在宅医療・介護に関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

講師

管理栄養士の立場から……^{おくむら}奥村 ^{けいこ}圭子氏 (管理栄養士、介護支援専門員)

患者さんが非がん終末期、摂食嚥下困難な時期を迎え「食べたいことを否定しない望む暮らし」を患者さんやご家族から問われたときに、医師、歯科医師、看護師、ケアマネジャーとの関わりを通じ在宅管理栄養士の可能性と限界について考えてみたいと思います。

医師の立場から……^{もり}森 ^{りょうた}亮太氏 (昭和区・杉浦医院院長)

多職種連携が医療の中で強調されるようになってから、数年が経ちます。医師・看護師・ケアマネジャーとの連携は、近年随分進んできているように感じます。

今回は、嚥下困難・摂食障害と診断され在宅に戻ってこられた患者さんに対して、もう一回り大きな連携——医師・歯科医師・看護師・ケアマネジャー、そして、在宅管理栄養士との連携をはかることにより、「食べる」ことを取り戻す体験ができたので、医師としての関わりについて紹介します。

歯科医師の立場から……^{さかい}坂井 ^{けんすけ}謙介氏 (昭和区・坂井歯科医院院長)

在宅診療における摂食・嚥下障害への対応は患者さんが苦しまず最後まで口から食べる事を楽しんでもらうためにも重要です。口から食べる事で栄養を摂り、それを支える栄養なくては考えられません。医師、看護師、ケアマネのみならず、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士との連携は効果的です。この連携を歯科医療の観点からコメントします。

アドバイザー

FAX 052-834-3512

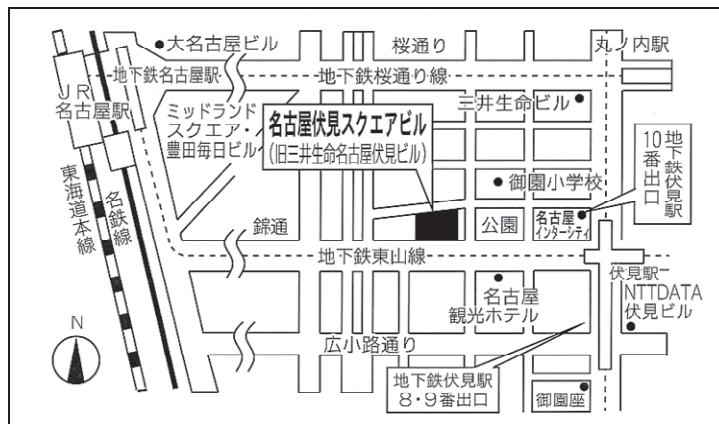
在宅ケアセミナー 参加申込み

(と き) 6月23日(日)午前10時~12時

(テーマ)「在宅栄養管理における多職種連携」

氏名	(職種)
	(職種)
	(職種)
	(職種)
	(職種)
医療機関・施設名	
住所	TEL () -
事前質問等	

愛知県保険医協会 伏見会議室



〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目13-26 名古屋伏見スクエアビル9F

TEL 052-223-0415

- ◇ 地下鉄 東山線・鶴舞線「伏見」駅⑩番出口出て西へ300m
- ◇ 当ビルに駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい